
やっぱり4人でごらく部だよ

美柚梨

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

やっぱり4人でごらく部だよ

【Nコード】

N9613Z

【作者名】

美柚梨

【あらすじ】

中学2年生の春休み、あともう少しで、中3になると、楽しみにしていた、春休み…。

そんな、何気ない日常の中で、突然失ったもの。

それは…船見結衣にとって、かけがえのない存在だった。

キャラ紹介

初めまして、美柚梨と申します。

初めての投稿で、緊張しています（ドキドキ）

実は私、なもり先生原作の、『ゆるゆり』という漫画が、大好きです。

アニメももちろん、大好きですつ。

その『ゆるゆり』を、

ちよっぴり？シリラスにした、今回の小説です。

『ゆるゆり』の、2年後のお話です。

船見結衣
ふなみ ゆい

本作の主人公。

県立七森高等学校1年生。

京子のが忘れられない。

野乃瀬胡桃
ののせくわみ

『ゆるゆり』には登場しない、本作のオリジナルキャラ。

県立七森高等学校1年生。

中学3年生の頃に、七森中学校に転校してきた。

結衣の友達。

京子に似ている。

歳納京子
としのつぎきょうこ

七森中学校2年生の春休み、交通事故で、この世を去ってしまった。
結衣とあかりの幼なじみ。

赤座あかり

『ゆるゆり』での主人公？そして、本作での結衣の幼なじみ。

七森中学校3年生。

結衣と京子の幼なじみ。

現在、2人しかいないごくらく部員の1人。

ものすごくいい子。

…とにかくいい子…うん、いい子…。

吉川ちなつ

結衣先輩大好き？な、

七森中学校3年生。

現在、2人しかいないごくらく部員の1人。

杉浦綾乃

私立八森高等学校1年生。

京子が志望していた、そして、結衣と胡桃の高校でもある、

県立七森高等学校に受験するはずだったが、

結衣もそこを受験すると知って、

京子の幼なじみの結衣の顔を見ると、

京子を思い出してしまうと、自ら志望校を変えた。

京子が大好き？／＼／＼だったが、今では、「忘れないと」と思っている。

千歳とは、大心友。

池田千歳

私立八森高等学校1年生。

「綾乃ちゃんの行く高校に行きたいわ〜」と、

志望校は特になかった様子。

もともと京子×綾乃（たまに、綾乃×京子）の妄想をしていたが、

京子がいなくなってしまうたせいか、「最近鼻血が出ないんよ」と、
悩んでいたりする。…鼻血出ないのが普通なんだ、千歳…。

おほむすねくまこ

大室櫻子

七森中学校3年生。

櫻子には、生徒会副会長はつとまらないということまで、

副会長の座は2年生の後輩に託し、

櫻子は、生徒会福（笑）会長になっている。

副会長と福会長の違いが分かってないらしく、

福会長で、満足している。

向日葵がひそかに好き…？

ふるたにひまわり

古谷向日葵

七森中学校3年生。

生徒会長。

櫻子がひそかに好き…？

第1話 私って、なんて勝手…

みんなのそばには友達がいて。

私のそばにも友達がいて。

でもお前はもうそばにいない。

結衣「もう…春…か…」

また、前みたいに、舞い落ちる桜の花びらを手にのせて…遊ぼうか…。

…京子…。

結衣「…」ハア…

アーイーマイーミーエーナイー

着信 赤座あかり

ピッ

結衣「はい…、うん、久しぶり」

結衣「え、今日？」

結衣「…うん、分かった。行けたら行くよ」

結衣「ああ、また」

ピッ

季節は変わる。何があったって変わる。

でも…

胡桃「おはよっ、結衣」

結衣「おはよ、胡桃」

私の季節は…、もう、きっと、変わることもなんてない。

あの頃のまままだ…、あの頃の、春のままなんだ…。

京子がいなきや、私の季節は変わらないんだ…。

胡桃「ねえ、結衣ってさ、結局、七森中で、何部にはいつてたわけよ？」

結衣「何部に…」

胡桃「え、あ、うん、そう、何部？」

結衣「…」

胡桃「あ、ごめん！なんか別の話にしようか！」

勝手だなあ。

胡桃「えーっと、えーっと…」

私って、勝手だなあ。

胡桃「あ、じゃあさあ！」

いちいち傷ついてばっかで、いつも胡桃に心配かけちゃう。

胡桃「ずいぶん前…？にやってた、『魔女っ娘ミラクるん』って知って」

ダンッ

胡桃「あ…」

結衣「その話はやめてー！」

胡桃「ご、ごめ…」

結衣「！！」「ハッ

結衣「ごめん胡桃、いきなり机たたいたりして…」アセッ

胡桃「い、いいの、結衣、嫌いだったかな、ミラクルん…」ジワ…

結衣「あ、いや…。そうじゃなくて…」

胡桃「ごめんね、またっ」

タツ

結衣「クソっ…」

結衣「お前がいないと…、やっぱりダメなんだよ…」

結衣「京子…っ、帰って…来いよ…っ」

結局、今日1日、胡桃とは話せなかった。

第2話 京子が必要なんだ

放課後 七森中学校 1 号室

ガラッ

あかり「あ、結衣ちゃん！」

ちなつ「キヤーっ！結衣先輩っ！」

結衣「久しぶり、2人とも。呼んでくれてありがとう」

あかり「えへへ…、またこうやって集まるのもいいかなって思って」

ちなつ「そういえば、なんであんなレベルの高い高校を受験しようと思ったんですか？」

結衣「あ、ああ。私はさ…」

ちなつ「？」

あかり「あ、えっと…（ちなつちゃん、知らないんだよねっ）」

あかり（結衣ちゃんの高校は、京子ちゃんが目指してた高校だったこと…）

結衣「私は…」

結衣「と、友達が…！そう、友達が、そこに行くって言ってたから

！だから…!!」

ちなつ「へえ、でもさすが結衣先輩です！合格するなんて！」

結衣「あ、あはは…」

結衣「…」

ちなつ「あれ…？」

あかり「…」

あかり（どうしようっ）

結衣「あ、そういえば、2人とも、髪型変わったね」

あかり「ああ、うん、お団子じゃなくて、ツインテールにしてみたよ」

ちなつ「あかりちゃんがツインテールって言葉知ってるなんて…」

あかり「あかり、時代遅れじゃないよっ!？」

結衣「ちなつちゃんは、ポニーテール…、か…」ポロツ

ちなつ「はいっ!…って、どうしました？結衣先輩」

あかり「ゆ、結衣ちゃん!？」

涙…か。

結衣「…」「ゴシゴシッ

あかり「大丈夫？」

ちなつ「結衣先輩…」

結衣「うん、大丈夫。ごめんね」

あかり「結衣ちゃん、無理しないでね？」オロオロ

ちなつ（あつ、そっか。京子先輩がいないから…）

ちなつ（京子先輩の写真でも見せて、元気出してもらわないと！）

ちなつ「そうですよっ、結衣先輩！えーっと…」「ゴソゴソ

結衣「？」

あかり「？」

ちなつ「あつた！ほら、ここに京子先輩、いますから！」

あかり「あ、うん！ほら、結衣ちゃん、ここに」

結衣「…！」「ポロポロ…」

そんな写真、急に見せられても…

あかり「…結衣ちゃん？」

ちなつ「ちょ、結衣先輩？」

結衣「…いんだ…」

あかり「え？」

ちなつ「はい？」

結衣「いないんだよ…！」

あかり&ちなつ「！」「ビクッ

やめろ、私。

結衣「いないじゃないか、このごらく部にも、どこにも…！」

やめるんだ、私…！」

結衣「みんな、変わって…！私も高校生になって…！でも……！」

結衣「でも…！京子は…、京子は……！」

結衣「戻りたいんだよ…！…戻りたいんだよ……」

結衣「京子のいたあの頃に…！」

バカだ私…！」

なんで2人の前でこんなこと…！」

あかり「…でもね結衣ちゃん」

あかり「あかりたちだって、本当はさみしいんだ」ポロツ
そうだよな、それは知ってるんだ。

私だけじゃないことは、知ってるんだ…。

あかり「ずっと一緒にいたんだもん…」

あかり「あかりだって、戻りたいよ…」

ちなつ「私だって、戻りたいです」

ちなつ「いつも私にまわりついてきてっ、本当、京子先輩は！っ
て思っていました」

ちなつ「でも、もう、そうやって思う事ができません」

ちなつ「…本当は、嬉しかったんです」

ちなつ「…京子先輩…」ポロツ

結衣「…ごめん、今日は、帰るね」

あかり「グスツ…う、うん。ごめんね？結衣ちゃん…」

ちなつ「京っ…子…先輩…！！」

ガラッ バタン…

結衣「だめだ…、やっぱり、京子がいなきゃ…」ハア

…京子が死んだのは、きっと、私のせいだ。

それは、中学2年生の、春休みだった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9613z/>

やっぱり4人でごらく部だよ

2011年12月30日01時46分発行